

あいさつ

大町学区連合町内会の皆様、あまり冷えた日がなく安堵しております。

2月に各町内会自治会の皆様にむけて、役員を募集しました。是非とも自分が住む街を永く安心安全に住むための活動としてご協力をお願いします。

私もこの町内会に関わり、さまざまな考え方を勉強しました。そこで学んだ私なりの考えについて、述べさせていただきます。まず、正月の能登半島地震の避難の際には、地域の結びつきがあったことで、とても助かったとありました。地域の大切さが再考されつつあります。

しかし、現在の私たちはどうでしょうか。少子高齢化や単身世帯の増加などの家族単位の縮小。労働や生活環境の変化といった様々な社会的要因の変化価値観の多様化により、町内会に入らない、入れない。そして活動できないと思っている人も多く、ご近所との付き合いについても希薄になっている人が多いのではないのでしょうか。

行政では、多数の住民サービスに対応ができない状況となりつつ、ゴミ収集や道路管理などの生活インフラ維持で手一杯となってきています。

そこで地元のことは地元でして欲しいとのことです。そもそも町内会・自治会は何のためにあるのでしょうか。地域課題の解決のために、さまざまな住民ニーズを、住民や行政、政治により解決を図り、継続的に安心して暮らせるようにするためです。それがご近所の横のつながりと、公的機関行政への縦のつながりです。人は一人では生きていきません。特に高齢になればなるほど社会コミュニティが大切となります。住民同士が支え合い、安全・安心に暮らすことができる地域を創り、持続可能な地域社会の実現を図るためにも、今から活動を始めてみませんか。



さて、大町学区連合町内会のうごきを町内会の皆様にお知らせします。

うごき

〇みんなで創ろう地域の未来

広島市が考えている、今後の地域コミュニティの在り方について検討する「持続可能な地域コミュニティの実現に向けたシンポジウム」が2月4日(日)広島国際会議場で開催されました。松井広島市長は、冒頭のあいさつで「地域コミュニティは不可欠なもの。何がいるか考えてほしい。今回、広島型地域運営組織「ひろしまLMO(エルモ)」を立ち上げた。各地域の活性化のために活用してほしい。とありました。そして、ひろしまLMOの紹介があり、複数の人が、協働で作業すること、もやいで社会を繋げていく。従来の町内会では出来ないことを、地域づくり協議会として、LMOでしていく。人を単位とした“この指とまれ”としたい。立ち上がりが一番大変。安定するまでに10年はかかる。“これまでとこれからは違う”をキーワードで進めていきたい。」とありました。



〇よつばのクローバー

2月27日(火)大町集会所にて、ご近所のゆるやかな見守りをおこなうため、「よつばのクローバー」を結成しております。

ご近所に独居老人や気になる方や、ご近所をゆるやかに見守る方を募集しています。

また、今後は「いきいきポイント」の対象となることも確認しました。

予定

〇3月17日 町内会・自治会長会議

〇4月29日 連合町内会総会 集会所